

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05030030

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	7	介護保険事業会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	7	高齢者支援の充実	事業優先度		B	
単位施策	1	地域包括ケアの推進	政策事務分類	4	法定自治事務	
事業名	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定事業					
事業期間	平成26年度～平成29年度					
事業主体	雄武町					
事業指標	計画の策定					
事業目標	26年度、29年度					
住民参加 住民協働	有					
			見直し年度			
			担当課	5	保健福祉課	
			関係課	6	地域包括支援センター #N/A	
			ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
			関係例規・法令名	有	介護保険法・老人保健法	
			関係個別計画名			

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
全体計画 事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	○高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の策定を行う。 ※ 3年毎見直し		第7期高齢者保健福祉計画及び第6期介護保険事業計画策定事業 ・策定委員会委員報酬 ・策定業務委託			第8期高齢者保健福祉計画及び第7期介護保険事業計画策定事業 ・策定委員会委員報酬 ・策定業務委託
	事業費(千円)	6,696	0	3,348	0	3,348
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	6,696		3,348		3,348
実 績 事 業 費	事業費(千円)	6,813	0	3,228	0	3,585
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	その他	6,813		3,228		3,585
関 連 事 項	特定財源の名称 ・一般会計繰入金		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続	年度目標値		計画の策定		計画の策定
	第6期計画への継続	年度達成率	#DIV/0!	96%	#DIV/0!	107%
		全体達成率	0%	48%	48%	102%
	備考欄					

事業名	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	保険給付係長	前田 忠和

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定	
【抱える課題やニーズは】	高齢になっても地域で安心して暮らし続けられるまちづくりの推進	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	様々な状態の高齢者が公的サービスを多面的に受けながら、地域で安心して暮らし続けるための「地域包括ケア」の構築を目指す。	① 計画の策定	目標年度	平成29年度
			目標値	1式
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	高齢者が住み慣れた地域でいつでも心身ともに健やかに暮らせるよう、介護、保健福祉、生きがいづくりなどの各種施策を計画し、住民とともに推進していく。	②	実績値	1式
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	策定委員会設置	各関係機関や学識経験者、一般公募など9名で構成される策定委員会を設置し、計画策定に関して審議いただいた。		
	計画書作成	策定業務を専門業者へ委託し、策定委員会での意見等を踏まえ、計画を策定した。計画書については、関係者や関係機関に配布するとともに、概要版を全戸配布した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	老人福祉法及び介護保険法に基づき計画策定が義務付けられており、制度改正や地域の状況等に対応するため、3年を一期とする計画を定める必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	65歳以上の町民を対象としたアンケート調査を実施して、対象者の状況やサービスのニーズ等を把握するとともに、サービスの利用実績や要介護認定者数の推移等を分析し、将来のサービス供給量や利用者数の推計を行うことにより、今後の町が目指すべき姿を具体化した実行性の高い計画を策定することができた。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	策定業務を専門業者へ委託することにより、実績数値の分析やアンケート集計などの作業負担軽減を図ることができた。また、策定委員会において、議論がスムーズに行えるよう会議資料を分かりやすく簡潔にまとめることにより、会議時間の短縮と会議開催回数の低減に努めた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	高齢者はもとより、地域住民全体の福祉のあり方をまとめた総合的な計画であることから、公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
高齢者や介護施策の指標となるものであり、計画どおり事業を進めることができ、目標が達成された。		

今後の展開方向  
(Action)

<b>継続/現状維持</b>		
3年後の計画策定に向け、計画する事業を着実に実施するとともに、実績の把握・分析、情報収集等を継続的に行う。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止